

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300161		
法人名	有限会社 サンテック		
事業所名	グループホーム小松崎あさひ園	ユニット名 1棟	
所在地	宮城県塩釜市小松崎4-45		
自己評価作成日	平成23年9月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎日基本理念と介護の重点の唱和を日勤者全員で行い、チームケアの意識を高めています。 ・毎年秋保へ日帰り温泉旅行へ出かけ、入居者様とご家族や地域の方が交流する機会を招いています。他にも夏のバーベキュー大会はご近所の方や他のグループホームの入居者様も招待してご参加いただき、交流の機会としています。 ・流しそうめん大会や、クリスマス会、年末の餅つきなどご家族も一緒に参加出来る行事を多く持ち、入居者様とご家族のコミュニケーションの場を積極的に設けています。 ・なるべく太陽に当たること、外気に触れ、季節を感じていただくことをモットーにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市街地から少し急な坂を上った場所に建つ開設11年目のグループホームである。入居者は塩釜市の方が多い。入居者家族との連携が良く、家族会を2ヶ月に一度開いて意見要望を聞き、また家族に積極的に入居者への面会を働きかけ、2ヶ月間に延べ89名の面会者が訪れている。職員は日々変化する入居者のニーズに迅速に対応する為丁寧な言葉掛けや見守りを心がけ、ケース記録等の様式を改善して変化の情報の共有を確実に行う為の努力をしている。管理者は職員に研修の受講を積極的に勧めて更なるスキルアップに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 小松崎あさひ園)「ユニット名 1棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に理念の唱和を行い、職員全員が理念を共有しケアにつなげている。また、年に1回は、職員会議で理念について振り返りの機会を設けている。	事業所独自の理念である。職員会議で理念について振り返ることで少しずつ変化して現在のものになっている。毎月理念に沿った介護の重点を職員が提案し、意識して支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	バーベキュー大会では、近所の方にも声をかけ、参加して頂けるようにしたり、市の老人会等には参加し、交流出来るようにしている。	町内会に加入して、清掃活動や夏祭り、防災訓練に参加している。開設後10年経ち、地域の方からは声掛けや野菜をいただいたりする他、気軽に近所の方が訪れて話をしていくなど交流が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座キャラバンメイトに職員が参加し、活動を開始するところに震災があり、活動出来ていないが、再開するときには、活動したい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、あさひ園での活動を報告し、行政、町内会、ご家族の意見や要望を聞き、活かしている。	年6回開催し、毎回市の職員が参加している。災害に備えて発電機を準備したらどうかとの提案があり検討中である。また職員の異動について知りたいとの意見にはホーム便りに写真入りで載せて対応した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一回地域ケア会議に参加し、他事業所や行政との情報交換や、連携が取れるようにしている。	市の担当者とケアマネージャーで構成する地域ケア会議に出席する他、地域の方から事業所選びの相談には地域包括支援センターを紹介している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の中で勉強会を行い、職員の意識付けや、拘束しないケアを実践出来るようにしている。施錠は夜間のみ防犯のために行っているが、日中は施錠をせず、自由な出入りができるようになっている。	契約書で拘束しないことをうたっており、昼間の施錠はしていない。全体職員会議等で虐待や拘束についての研修を行っており、職員は拘束することの弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で、虐待防止の勉強会を行い、意識して虐待防止に努めている。不適切なケアが虐待に繋がるため、自分達のケアについて考える時間も設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	理解度は低く、外部での権利擁護研修も少ないので、内部でも研修を行い、理解出来るように努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時のご家族への説明には十分時間をとり、理解・納得して頂いた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一回家族会を開催し、あさひ園での活動を報告している。その中で、ご家族から意見や、要望を伺い、ケアに活かせるようにしている。また、玄関に意見箱を設置し、気兼ねなくご意見を頂けるようにしている。	2ヶ月に一度の家族会には毎回10人くらいの家族が参加している。事業所はお茶を飲みながら話しやすい雰囲気になるよう配慮している。入居者と一緒の食事や日帰り旅行、看取りに関してなどが話題となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週金曜日に、管理者会議を行い、職員の意見を代表者に伝える機会を設けている。	職員は備蓄用飲料水の品質保持のため保管場所を提案したり、ドアの補修やケース記録の様式変更などの意見を出している。また、書道の経験のある職員の発案で入居者が書に親しんでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいが感じられるよう、職場環境の整備に努めている。残業時間を減らし、リフレッシュできるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護研修センター等の研修に積極的に参加するようにしているが今年度は震災の影響で、研修自体が少なく、殆ど参加の機会がなかった。やっとセンターでの研修も始まったので、参加して知識向上に努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、定期的にブロック集会に参加している。また、地域ケア会議や研修等も交流のきっかけとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に来ていただいた際、入居時の実態調査、定期的なカンファレンスや、日々の関わりの中で、ご本人の要望は何か、不安なことはないか、敏感に感じ取れるよう努め、信頼関係を形成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションを図り、思いや要望を把握出来るようにしている。また、センター方式を使用しながら、困っていることを分析、不安の早期解決に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の関わりの中で、ご本人や、ご家族にとって今必要なことは何か把握出来るよう努めている。サービス導入前はもちろんサービス提供時にもそのサービスが適切か振り返りの時間をつくるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできることはご自分でやって頂けるように、できないところはヒントの提供をし、無理強いはならないようご自分のことをやって頂くようにしている。また、家事等は、職員が教えていただくことも多く、支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族より昔の生活について教えていただいたり、あさひ園での様子を発信したりして、ご家族と入居者様との距離が遠くならないようにしている。可能であれば受診の付添をしていただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には積極的な面会をお願いしている。なかなか来れないご家族にも毎月の手紙で近況報告したり、面会に誘うなど、疎遠にならないよう、仲介するようしている。	2ヶ月間に延べ89人が面会に訪れるなど家族の訪問は多い。面会の少ない家族には職員が手紙などで根気よくお誘いした結果訪れるようになった家族もいる。女性は馴染みの店に洋服を買いに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者様との関係づくりがなかなかできない入居者様には、さりげなく声をかけ、なじみの関係がつかれるようお手伝いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居された方のお見舞いや、亡くなられた方のお悔やみにいたりするが、現在退去後こちらからの働きかけは少ない。退去後も相談があれば、その都度相談にのったり関係が継続するように努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の発言やバックグラウンドから、またセンター方式を活用して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合でも、相手の立場に立って物事を考えるよう注意している。	ベンチで職員が寄り添って一緒に座っている時などに入居者が思いを話すことがある。日常的によく観察していると顔色や口調で健康状態や気持ちが分かる。入居者本人の言葉をそのまま記録し介護計画に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やかかりつけの病院、実態調査などから情報を得て、入所前の生活が守られるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、また入浴前にはバイタルサインのチェックを行い、一人ひとりの健康状態の把握に努めている。また、日中の過ごし方や、言動等もケース記録に記入しその方の「今」の状態を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、ご本人の言動を参考にしたり、ご家族の意向をお聞きするようにしている。カンファレンスでは、本人の意向に沿ったものとなるよう話し合いを進めている。	入居者の「今」のニーズを把握するため日々の言動や様子をよく観察し、また家族等の意見を参考に介護計画に生かしている。職員の気付きや工夫を記入しやすくするためケース記録の様式の変更を検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や実施したケアは出来るだけ詳細に記録するよう努めているが、気づきや工夫に関しては職員間でも能力にばらつきがある現状である。介護計画に活かしやすいよう、ケース記録の様式を変更することも検討中である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズを把握し、必要に応じて柔軟なサービスをするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、他事業所のお祭り、地域の消防訓練等に参加している。また、回覧板等でも地域の行事等を把握し、地域資源を有効に使えるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院、医師は、必ずご家族と相談して決めている。かかりつけの病院へは月に一回は通えるようにしている。また主治医を変える場合は、その都度ご家族になぜ変更を勧めるかを報告した上で相談している。	協力医はいるが、以前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。受診には職員が付き添い、状況の説明は口頭と文書で伝え、医師からの指示や注意等は家族に報告するとともに受診記録簿に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常駐していないため、病院受診時に日頃の様子を伝えたり、変わりがあれば相談してアドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は完治した上で、できるだけ早期に退院ができるように病院関係者に伝えるようにしている。入院してからご家族や病院とこまめに連絡を取り合い病状や退院時期の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を契約書に明記し、入居者様の変化に備えている。ご家族やご本人があさひ園での看取りケアを希望される場合は、充分話し合いを進めた上で往診の医師、訪問看護師と連携しながらチームケアを行っている。	重要事項説明書に看取りの希望があれば応じる旨が書かれている。昨年看取りの経験があり、家族会でも話し合われている。希望があれば指針を示して説明している。指針には事業所として対応できる事柄が明記されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを用意し、もしもの場合にスムーズな対応ができるようにしてある。また、年一回、職員は救命講習を受講し、急変時に対応する実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回は防災訓練を実施し、もしもの災害に備えている。そのうち一回は夜間を想定した訓練としている。また、運営推進会議の中で、災害時の協力をご近所の方にも呼びかけている。	年2回の防災訓練は運営推進会議と同時にを行い地域代表として何人かが参加しているが、できれば近隣の住民にも呼びかけて行っていただきたい。市からスプリンクラーの配管がずれていた事例があると聞き点検した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対し、いつでも尊敬の気持ちを持って対応させていただいている。職員会議の中でも個人個人の尊厳を守るケアとはどのようなものか考える時間を作り意識付けをしている。	入居者に対して常に尊敬の気持ちを持ち、子供扱いをしない、大きな声で呼んだりしない、自分の身に置き換えてみるなど尊厳を守るケアとはどういったことかを常に意識して支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ自己決定ができるよう声掛けをしている。ご自分から訴えかけがない場合は選択肢を提示したり、仕草から思いをくみ取るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアはゆったり、業務はテキパキを方針として、何よりケアが最優先という意識で関わらせていただいている。出来る限り、入居者様が、のびのびした生活を送れるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の整容を勧めるなど、身だしなみを整えて生活出来るようにしている。着る服もご本人の好みをお聞きしたり、TPOに合わせた格好ができるように支援している。自宅で化粧をすることが日課だった方には化粧を勧めるなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	症状の進行に伴いできることが限られてきている状況もあるが、入居者様の体調や気分を見ながら、できることを無理なくしていただくようにしている。	職員が献立をたて、できる方には手伝ってもらい一緒に調理を行っている。毎月栄養士に献立のチェックを受け、アドバイスをいただいている。入居者と職員は同じテーブルにつき和やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作成している。栄養のバランスが取れているか、栄養士に依頼して月に一回点検をしていただき、バランスの取れた食事の提供ができています。水分に関しては、ケース記録で摂取量の把握ができており、少ないときはゼリーやアイス等で水分を勧めることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年に一回は訪問歯科検診を全入居者様にさせていただいている。訪問歯科医の指導の下その方に合った方法で口腔ケアをさせていただいている。食後の口腔ケアと夕食後の義歯のポリドント消毒は毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	使用する排泄用具も本当に必要か、ご本人に合っているか検討しながら、一人でトイレに座れない方にもなるべくトイレでの排泄をお勧めしている。また一人ひとりの排泄パターンの把握をし不快な思いをせず排泄が出来るよう努めている。	日中オムツの方はいない。ケース記録でパターンを把握しトイレ誘導している。便秘対策としてマッサージや軽い体操などで対応しているが、なるべく同じ時間にトイレへ誘導して便通が整うように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中にラジオ体操を行い、体を動かすことで排便を促したり、便秘気味の方には水分を多めにとって頂いたり、お腹のマッサージをさせて頂く。できるだけ下剤に頼らないようケアしているが、必要に応じて下剤を服用していただくこともある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用し、気分を変えたりすることも。入居者様によって時間帯の希望もあるため時間を見て声をかけるなどご本人の負担にならないように努めている。	基本は一日おきであるが、希望があればいつでも入浴できる態勢である。拒む方には足浴をすすめたり、声掛けの工夫で入ってもらうが、無理強いはいないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室や廊下に温度・湿度計を設置し、快適な温度・湿度で休んでいただけるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表等で個人個人の薬の詳細を理解するようにしている。降圧剤であれば、血圧の変動を見るなど把握に努めている。異常があればすぐに主治医に相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割に関しては、その方のできることを見極め、家事等をしていただく。していただいた場合は積極的に感謝の言葉を伝えるなどして役割が定着するよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じてドライブや庭の野菜の収穫などできるだけ外に出ていただくようにしている。近所の方との外出は年に一回の日帰り温泉旅行がある。	立地上、日常的な散歩等は難しいが、中庭や前庭にでて外気に触れるように努めている。事業所の各種行事や年に一度全員で行く日帰りの旅行、また個別の外出として受診の折に買い物やドライブに誘うなど工夫をしてなるべく多く外出できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり、本人の希望により買い物をしていただける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話を掛けたい相手がいるときはいつでもやり取りが出来るようにしている。また現在、手紙のやり取りをする方はいないが、書きたいときはいつでも書くことができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が混乱しないように模様替えは殆どしない。居室にはなじみの物を置くようにしている。庭には花が咲き季節を感じられるようになっている。また、温度管理にも注意している。	食堂の壁には藍色地に月とうさを配した台紙に入居者の書が飾られ秋らしい雰囲気を出している。居間のほかファミリールーム、円卓のある静かなスペースなどゆったりとした空間を持っている。それらにできれば季節の草花などをあしらえばもっと潤いが出ると思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆どの方が日中はファミリールームで過ごされる。一人になりたい方には他のスペースを勧める等工夫している。食堂では入居者様の中で歌を歌うのが好きな方が集まり歌の会をするなど居心地のよい空間にするよう努力している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご本人になじみのあるものを積極的に持ってきていただき、あさひ園に早く慣れたり、居心地よく過ごせるように支援している。	広さや採光など居室は画一ではないが、なじみの家具や物入れなど持ち込み、その人らしくしつらえて安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その日によってできることを見極め、洗濯たみや、配膳など、一人ひとりができることを職員と一緒にしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470300161		
法人名	有限会社 サンテック		
事業所名	グループホーム小松崎あさひ園	ユニット名	2棟
所在地	宮城県塩釜市小松崎4-45		
自己評価作成日	平成 23年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・月一回の職員全体会議では認知症高齢者についての勉強会を開催し、職員全員が参加し、レベルアップを目指している。
 ・バーベキューなどの大きな行事には近所の方や、他事業所の方にも参加を呼びかけ、交流するようにしている。 ・ご家族の行事の参加も多く、準備の手伝いをさせていただきなど、園の活動にご理解いただいている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から少し急な坂上がった場所に建つ開設11年目のグループホームである。入居者は塩釜市の方が多い。入居者家族との連携が良く、家族会を2ヶ月に一度開いて意見要望を聞き、また家族に積極的に入居者への面会を働きかけ、2ヶ月間に延べ89名の面会者が訪れている。職員は日々変化する入居者のニーズに迅速に対応する為丁寧な言葉掛けや見守りを心がけ、ケース記録等の様式を改善して変化の情報の共有を確実に行う為の努力をしている。管理者は職員に研修の受講を積極的に勧めて更なるスキルアップに努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成23年10月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 小松崎あさひ園)「ユニット名 2棟 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するために、毎朝の朝礼で基本理念の唱和をしている。理念に沿った介護の重点を毎月職員が持ち回りで提起、掲示し基本理念と一緒に唱和している。	事業所独自の理念である。職員会議で理念について振り返ることで少しずつ変化して現在のものになっている。毎月理念に沿った介護の重点を職員が提案し、意識して支援に当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	園主催の行事への参加を町内会の方々に呼びかけている。民謡、踊り、紙芝居等のボランティアの方々が来てくださる。	町内会に加入して、清掃活動や夏祭り、防災訓練に参加している。開設後10年経ち、地域の方からは声掛けや野菜をいただいたりする他、気軽に近所の方が訪れて話をしていくなど交流が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議であさひ園での行事や、取り組みを紹介している。グループホームの実情など理解していただけるよう、中学生や、ヘルパーの実習の場として提供しており、認知症の理解をしていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の開催時には、市の担当者、地域の方、ご家族、職員と様々な立場からあさひ園での取り組みを見て、意見を頂き、サービスの向上につなげている。	年6回開催し、毎回市の職員が参加している。災害に備えて発電機を準備したらどうかとの提案があり検討中である。また職員の異動について知りたいとの意見にはホーム便りに写真入りで載せて対応した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば市の担当者に連絡、報告している。また、運営推進会議にご参加いただき、園の近況を報告したり、市の取り組みについてお聞きする機会がある。また、地域ケア会議や、ケアマネネットへの参加をしている。	市の担当者とケアマネージャーで構成する地域ケア会議に出席する他、地域の方から事業所選びの相談には地域包括支援センターを紹介している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の防犯目的以外での施錠はしない。言葉や身体拘束をしないケアについて、職員会議で勉強会をするなど、レベルアップや、意識の向上に努めている。	契約書で拘束しないことをうたっており、昼間の施錠はしていない。全体職員会議等で虐待や拘束についての研修を行っており、職員は拘束することの弊害を理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、職員会議で発表するなど虐待防止について周知している。また何が虐待を生む原因になるのかなど職員会議の議題としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修が少なく、まだまだ勉強の機会が少ない。今後研修会に参加したり、あさひ園内でも勉強会を設けより一層の理解に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や、解約の際は、ご本人、ご家族と十分に話し合い、理解、納得していただいている。また、改定時はきちんと説明し、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関前に、苦情要望意見箱を設置している。2ヶ月に一回の家族会では、ご家族が気持ちを話し合いやすい雰囲気作りに努めている。面会時は、入居者様の様子をお知らせするなどコミュニケーションを密にしている。	2ヶ月に一度の家族会には毎回10人くらいの家族が参加している。事業所はお茶を飲みながら話しやすい雰囲気になるよう配慮している。入居者と一緒の食事や日帰り旅行、看取りに関してなどが話題となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護職員からの意見は、毎週金曜日の管理者会議で報告し、検討されている。	職員は備蓄用飲料水の品質保持のため保管場所を提案したり、ドアの補修やケース記録の様式変更などの意見を出している。また、書道の経験のある職員の発案で入居者が書に親しんでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績、勤務状態等に応じた処遇をしている。また、オンとオフの切り替えができるよう、なるべく時間外勤務がないように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的に参加し、内部でも職員会議の際に、勉強会を開催し個人のレベルアップに努めている。また、資格取得に関しても、積極的に取得するよう呼びかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会、ブロック集会、ケアマネネットワーク、地域ケア会議キャラバンメイトなどに参加し、他事業者との交流の機会がある。また、パーベキュー大会に招待するなど交流出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査の際にご本人やご家族の話から情報を収集し要望も伺うようにしている。また、職員ではどんなケアをしていけばいいかユニット職員で話し合い、安心を提供できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族の不安が少しでも解消されるよう、面会時には、入居中の様子をこまめに報告するようにし、安心していただけるように努めている。職員側からも要望がないかお聞きし、サービス向上や、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や、ご家族の意向を聞き支援している。また、必要に応じて他のサービスの利用も検討するなど柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や、食器洗い、洗濯たたみなどを通じて、日常的にご本人ができる場所は、一緒に行い、ご本人の役割を大切にしながら働きかけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族にお手紙を送り、近況報告をしている。園の行事などご家族にも参加していただき一緒に楽しめる雰囲気作りをしている。また、関わりの中から情報を頂き、家族とともに支える関係がつけられている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外でも、なじみの方との関係が維持出来るように、希望があれば行事にご参加いただくこともある。また、面会は自由にしていただける。お盆や正月などは自宅で過ごす方もおり関係性が持続出来ている。	2ヶ月間に延べ89人が面会に訪れるなど家族の訪問は多い。面会の少ない家族には職員が手紙などで根気よくお誘いした結果訪れるようになった家族もいる。女性は馴染みの店に洋服を買いに行くこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格やそれぞれの関係性を職員が理解、共有し、入居者様同士が良好な関係を築けるようサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院・退居された方や、他施設にご入居された方には、必要に応じて情報提供している。退去後のフォローはなかなかできておらず、今後の課題である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、基本情報、生活歴、既往歴、ご本人及びご家族の意向の把握に努めている。意思表示が困難な方は、言葉や表情から思いをくみ取り本人の立場に立ったケアを心がけている。	ベンチで職員が寄り添って一緒に座っている時などに入居者が思いを話すことがある。日常的によく観察していると顔色や口調で健康状態や気持ちが分かる。入居者本人の言葉をそのまま記録し介護計画に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査の際、ご本人やご家族から生活歴や、なじみの暮らし方について十分な聞き取りをし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃から入居者様の様子をよく見て変化に気づくようにしている。また、ケース記録や申し送り等を活用し、カンファレンス等で職員で共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を確認しながら、3ヶ月に一回介護計画の見直しをしている。またそのときに合ったものとなるよう必要があればその都度カンファレンスを行い、介護計画の見直しをしている。	入居者の「今」のニーズを把握するため日々の言動や様子をよく観察し、また家族等の意見を参考にして介護計画に生かしている。職員の気付きや工夫を記入しやすくするためケース記録の様式の変更を検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や、個人のケアノート、受診記録等で情報の共有を図っている。カンファレンス時は、その情報を活かし、ケアや介護計画の見直しに取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生じたニーズに対応するため、ご家族やご本人の希望を取り入れながら、職員間でも話し合いを行い、柔軟な対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練に参加したり、民生委員の方にも協力を得ながら、ご本人が安全で楽しい暮らしが送れるよう支援している。ボランティアの皆さんには慰問に来ていただき、よい刺激になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関があり、それぞれかかりつけ医に受診している。	協力医はいるが、以前からのかかりつけ医に受診できるように支援している。受診には職員が付き添い、状況の説明は口頭と文書で伝え、医師からの指示や注意等は家族に報告するとともに受診記録簿に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	あさひ園には看護師はいないため、受診時に報告して、適切な医療を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合には、できるだけ面会に行くようにし、ご家族や病院関係者との情報交換、相談を行い、早期退院ができるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関する指針を契約書に明記し、ご本人、ご家族に理解していただくようにしている。ご本人の意向と園でできることを理解して頂き希望があれば看取りまで支援している。	重要事項説明書に看取りの希望があれば応じる旨が書かれている。昨年看取りの経験があり、家族会でも話し合われている。希望があれば指針を示して説明している。指針には事業所として対応できる事柄が明記されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて、マニュアルを作成し職員間で共有している。また年に一回は消防署の救命講習を受講し、万が一の事故に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	園内で、消防署の協力を得ながら、防火訓練を行い、災害があった場合に備えている。また、運営推進会議のメンバーにもご参加頂く予定である。	年2回の防災訓練は運営推進会議と同時に地域代表として何人かが参加しているが、できれば近隣の住民にも呼びかけて行っていただきたい。市からスプリンクラーの配管がずれていた事例があると聞き点検した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意志を第一に一人ひとりに敬意をはらって接している。プライバシーの保護については、守秘義務について職員会議の中でも確認する時間を設けている。	入居者に対して常に尊敬の気持ちを持ち、子供扱いをしない、大きな声で呼んだりしない、自分の身に置き換えてみるなど尊厳を守るケアとはどういったことかを常に意識して支援に当たっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から何をしてもまず入居者様の意向を確認するようにしている。普段の何気ない会話の中にも思いや希望が込められていることがあり、ケース記録などにご本人が発した言葉を積極的に記入するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望に合わせて外出や、買い物も個別に対応するようにしているが、行事や勤務体制によってはご本人に相談し、納得していただいた上で希望に添えないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択はご本人にお任せしている。難しい場合は、聞き方を工夫するなどなるべくご本人の意向をくみ取るようにしている。食べこぼし等で汚れた場合はご本人に声を掛け、即時対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや、盛りつけ、食器拭き等を一緒に行っている。誕生日や行事の時は、食べたい物の希望をお聞きし、1～2時間を掛けゆつくりと会話や、食事を楽しんでいる。	職員が献立をたて、できる方には手伝ってもらい一緒に調理を行っている。毎月栄養士に献立のチェックを受け、アドバイスをいただいている。入居者と職員は同じテーブルにつき和やかな食事風景である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一回栄養士の指導を受けて食事のバランスを確認している。食事や水分量をケース記録に個別に記入し把握している。ご本人の体調や状態に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりに合わせた方法で口腔ケアを行っている。また、訪問歯科医から口腔ケアの指導もあり、口腔状態に合わせた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる方にはできるだけトイレで排泄していただけるように支援している。ご自分からの訴えが難しい方は、表情や、表現を見て、トイレの声掛けをしている。	日中オムツの方はいない。ケース記録でパターンを把握しトイレ誘導している。便秘対策としてマッサージや軽い体操などで対応しているが、なるべく同じ時間にトイレへ誘導して便通が整うように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにより、便秘の把握に努めている。便秘予防のために身体を動かしたり、栄養士の指導を得ながら、水分や食べ物の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はご家族の了解を得て、一日おきに行っている。本人の希望があればいつでも入浴出来るようにしている。	基本は一日おきであるが、希望があればいつでも入浴できる態勢である。拒む方には足浴をすすめたり、声掛けの工夫で入ってもらうが、無理強いはいしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安眠、休息出来るように支援している。眠剤はできるだけ使用せず、眠れないときは一緒にお話ししたり工夫をし、その方のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、用法、用量、副作用について全職員が把握に努めている。薬の管理は職員が行うが、服薬の際は、手渡しし、飲み込むまで確認させて頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や楽しみなどを理解し気分転換に努めている。園での家事もできるところは一緒に行い、張りのある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見、ドライブ、散歩、買い物等の外出は、ご本人の希望と職員の勤務体制を調整して行っている。日帰り温泉旅行はご家族と一緒に楽しんでいる。	立地上、日常的な散歩等は難しいが、中庭や前庭にでて外気に触れるように努めている。事業所の各種行事や年に一度全員で行く日帰りの旅行、また個別の外出として受診の折に買い物やドライブに誘うなど工夫してなるべく多く外出できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人による金銭管理は難しくなってきた。お金を使うことへの大切さは理解しており、金銭出納簿により、職員が管理し、買い物の際は、職員が付き添っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も自由にさせていただいているが意志疎通が難しくなっている方もいるため、個人差があります。希望により代筆させていただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気をつくるためにご家族の絵や、入居者様の塗り絵を飾っている。また、外には植物を植える等工夫している。	食堂の壁には藍色地に月とうさぎを配した台紙に入居者の書が飾られ秋らしい雰囲気を出している。居間のほかファミリールーム、円卓のある静かなスペースなどゆったりとした空間を持っている。それらにできれば季節の草花などをあしらえばもっと潤いが出ると思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中で、ソファやテレビが置かれ、ひとりでゆったりと過ごしたいときにはひとりで、気の合う方と過ごしたい場合はお茶のみ話ができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族になじみのものが居室にあることの大切さをお話しし、なじみのものを持ってきていただいている。	広さや採光など居室は画一ではないが、なじみの家具や物入れなど持ち込み、その人らしくしつらえて安心して過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりのできることがその時々で違うことを職員も理解し、その人らしさを奪わないケアを心がけている。		